■特別講演講師プロフィール

大石 学（おおいし まなぶ） 独立行政法人日本芸術文化振興会監事 東京学芸大学名誉教授

1953 年東京都生まれ。
東京学芸大学大学院修士課程修了。筑波大学大学院博士課程単位取得。
名城大学助教授、東京学芸大学助教授を経て、2001 年より東京学芸大学教授。
2016 年 4 月～2018 年 3 月まで東京学芸大学副学長を務める。
独立行政法人日本芸術文化振興会監事。東京学芸大学名誉教授。
『るろうに剣心』（2012 年、2014 年）『柘榴坂の仇討』（2014 年）『新選組！』（2004 年）『龍馬伝』（2010 年）『八重の桜』（2013 年）『花燃ゆ』（2015 年）『西郷どん』（2018 年）など数多くの映画や大河ドラマの時代考証も手掛けている。
主な著書に『新選組―「最後の武士」の実像―』（中公新書、2004 年）、『江戸の教育力―近代日本の知的基盤―』（東京学芸大出版会、2007 年）、『敗者の日本史 15・近世日本の勝者と敗者』（吉川弘文館、2015 年）など。

「講演内容概要」

グローバル化・パンデミック拡大が進むなか、自国優先主義や地域間格差・対立が顕在化する今日、坂本龍馬の思想と行動の検討は、重要性を増している。講演では、私が大河ドラマ『龍馬伝』の時代考証を通じて、龍馬の人生をたどった経験などをもとに、彼の思想的成長と活動の意義を、現代的視点からあらためて考察することにしたい。

■研究発表者プロフィール

網屋 喜行（あみや よしゆき）　鹿児島県立短期大学名誉教授（「吉田」本家末裔）

1936 年(昭和１１)１月　京都市で出生。
1962 年(昭和３７)３月　早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了。
2001 年(平成１３)６月　鹿児島県立短期大学名誉教授。
最近の仕事
2006 年 論文「自民党新憲法草案の軍事条項」（季刊「戦争責任研究」第 54 号）
2008 年 論文「象徴の設計」と「2･26 事件」における、松本清張の「上官命令絶対服従制度」に関する考察（松本清張記念館）
2014年・2016 年・2018 年　現代龍馬学会で報告。
2017 年 共著「憲法９条ー守るために考える」増補改訂版（鹿児島市谷山９条の会）

山本 修（やまもと おさむ）　株式会社便利堂 コロタイプ研究所所長

1960 年　京都生れ。1979 年平安高校卒業後、便利堂コロタイプ工房へ入社。以来 40 年コロタイプ一筋で今日に至る。2017 年には、コロタイプ研究所の開設に伴いコロタイプの新たな技術開発と広報活動に取り組む。コロタイプでの主な複製品製作物は、「蒙古襲来絵詞」や「正倉院文書」、伊藤若冲筆「動植綵絵」などがある。

坂本 世津夫（さかもと せつお）
国立大学法人愛媛大学 社会連携推進機構教授（地域連携コーディネーター）

2005 年４月から 2011 年３月まで、高知大学国際･地域連携センター教授(生涯学習部門長)。
2014 年 10 月より愛媛大学社会連携推進機構教授（地域連携コーディネーター　南予担当）。
2019年10月より愛媛大学地域協働センター南予　副センター長。地域情報化アドバイザー（総務省）、地域活性化伝道師（内閣官房）、一般社団法人日本テレワーク協会アドバイザー、現代龍馬学会（理事）、マイルドさ国党（党首）　等。

前田 由紀枝（まえだ ゆきえ）　高知県立坂本龍馬記念館 学芸課長

高知市生まれ。
朝日新聞高知支局勤務を経て公立中学校教員。2004 年から高知県立坂本龍馬記念館学芸員として勤務、2014 年から学芸課長。
担当企画展として「亀山社中と海援隊」展、「反骨の農民画家・坂本直行」展、「風になった龍馬」展、「4 代目 坂本直道」展、「坂本家・家族の絆」展、「ジョンマンと呼ばれた男～中濱万次郎」展、「龍馬をめぐる女たち」展、「幕末と船」展など開催してきた。